

第1回ワークショップの結果概要

1 計画検討やワークショップの進め方について

1) 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

●公共施設再編の必要性

- 婦中地域の人口は増えており、他の地域と比較して施設が多いわけでもない。現在ある施設は必要最低限のものだと思うので、短期的に見て統廃合すべき施設があるとは思えない。
- 施設が集中している速星地区や鶴坂地区では人口が増えているが、他の地区では人口が頭打ちで施設が少ない状況だ。人口が多い地区と同じ様に比べられて、コスト削減のために施設を削れと言われても難しい。
- 公共施設に多くのコストがかかっていることを今回の説明で初めて知った。公共施設再編を考える必要があると思う。

●検討の進め方

- 富山市内の各地域で役割が異なると思うので、人口の増えている婦中地域はその状況を踏まえて、婦中ならではの方向性を考えるべきだと思う。
- 利用者数や1人当たりの面積を指標にしてコスト削減するのは、行政の取るべき考え方ではないと思う。コスト削減の必要があるならば、施設を減らすのではなく大規模な施設のコストを下げ、今ある施設は維持することを考えた方が良くはないか。
- 利用率が少なくても地区にとっては重要で不可欠な施設があるので、まず地区ごとで最低限必要な施設と地域全体で必要な施設を検討する必要があると思う。
- 年間利用者数が人口の多い地区では多く、少ない地区では少なくなるのは当たり前のことだ。人口が少ない地区の施設は利用人数が少ないから廃止という話にならないように、地区人口を踏まえた適正なデータに基づいて検討してほしい。

- 参加者の居住地区が異なるので論点にバラつきが出るかもしれないが、他の地区の現状を理解しあいながら、婦中地域全体のこととして考えていきたい。
- 同じ婦中地域内でも川や山を越えると状況が大きく変わるので、地区による状況の違いを踏まえる必要がある。

2) ワークショップの進め方

- 婦中地域は発展途中で人口も増えている地域なのだから、施設を減らす方向の議論だけでなく既存施設の活用やサービスの充実、利用率向上の方法といった議論もすべきだろう。公共施設の数が減っても充実した機能を維持できるようにしたい。
- ワークショップの目的や議論の進め方を明確にしないと議論がばらけてしまう。削減するのは施設数なのか、面積なのか、コストなのか、各回で何をどう検討するかなど、具体的に説明してほしい。
- 自分の住んでいる地区以外の施設については実情がわからないし、地区の生活や活動と密接に関わっていると思うので話しづらい。議論しやすい富山市民全般や婦中地域全体の住民が利用する施設の中で、利用率が低いものから検討するのが良いのではないか。
- 公共施設全般の話をするより、個々の施設の課題と解決策を具体的に話す方が発言しやすい。各施設の状況が把握できるように、耐震性の有無、固定費、利用人数などのもっと詳細なデータを提供し、市に施設集約の腹案があれば出してもらいたい。
- 先行して実施された他地域でのワークショップで、どんな話し合いがされたのか知りたいので資料がほしい。特に大沢野地域は婦中地域と地域特性が似ているので参考になると思う。
- 小学校や公民館に対して思い入れのある人は多いと思うので、参加者が限定されているワークショップの様な場で再編についての議論はできないと思う。もっと多くの人意見を聞くべきではないか。

- 小学校の統廃合については別の場で検討を進めていると聞いたが、そこでの検討とこのワークショップとはどのような関係にあるのか。市長が小学校の統廃合はやむを得ないと言っているという話もあるので、話し合う前に統廃合はもう決まっているのではないかと非常に不安だ。

2 地区のまちづくりや公共施設について

1) まちづくりの現状と課題

■ 人口問題

- 地域内に人口が増えている地区と減っている地区があるが、子どもの数が増える策を考えて地域全体を活性化すると共に、双方が支えあって暮らししていくことが大切だと思う。人口が減少している地区の施設を減らす方向にはしたくない。

■ 施設配置

- 地区によって人口の増えているところと減っているところがあるので、施設配置がアンバランスになっている。このままでは公共施設がないことが更に過疎化を加速させてしまう地区がある一方で、人が増えている地区ではさらに施設や駐車場が必要になり、格差が広がってしまう。地域全体として対策を考えたい。
- 商業施設、行政関係施設、文化施設が点在していて、地域の中心がどこなのかが不明確だと思う。どこを中心にしていくかも含めてまちづくりの方向性を議論したい。
- 速星地区と鵜坂地区に機能が集中しているため、朝日地区や神保地区は過疎化しているように感じる。すべての公共施設を集約するのではなく、地区内にある程度バランス良く分散させてほしい。

■ 地区の一体化

- 小学校は統合されたが行政機能や公民館、自治振興会などは合併後 50 年以上たっても統合されていない地区がある。合併前の地区の枠を超えて、地域をいかに一つにしていくかが課題だと思う。

■ 交通アクセス

- 今後高齢化がますます進むと思うので、山間地から施設の集中している速星地区へのアクセスなど、婦中地域内の交通アクセスを考えてほしい。
- コミュニティバスの便数が少ないため、車を持っていない住民にとって不便だ。特に今後も増えていく高齢者にとって大きな課題で、活動場所への移動手段がないことが地域活動の妨げにもなっているので、交通アクセスの充実は重要だと思う。
- 駅周辺の駐車場が少なく、パークアンドライドする際などに不便を感じている。

■ 防災

- 気候変動の影響などもあり防災への関心が高まっていると思う。婦中地域にはこれまでに河川氾濫の被害を受けた地区や5mの浸水が想定されている地区があるので、水害が起きた際に対応できる様に新たな避難所を設けたり、水に強い避難所を整備する必要がある。

■ コミュニティ

- 婦中地域では団地ができて人口が増え、子どもも多い。子どもは地域の学校に通っているので地域に密着して生活しているが、親世代などの若い世代は地域との関係性が薄く、興味がない人もいる。公共施設も利用していないので、世代間で利用率に偏りが生じているのが課題だと思う。

2) 公共施設の現状と課題

■ 公共施設全般

●地域の現状

- 人口が減少している地域ではなく、商業施設も増えてきているので、施設は充実していると思う。
- 音川地区、古里地区、神保地区は八尾地域と近いこともあり、八尾地域の施設に行くことが多い。

●残してほしい施設

- 小学校と公民館は自治の中心を担っている施設なので、1つの地区に一公民館、一小学校という基準は残すべきだと思う。地区からこの2つがなくなってしまうたら、地域の発展が難しくなる。

●不足している施設

- 速星地区には児童館やスポーツプラザなどの施設があるが、子どもが遊ぶ場がないので道路で遊んでいる地区もある。公民館を開放したり、公共施設の空きスペースを活用して子どもの遊び場ができると良い。
- 高齢者や障がい者団体が利用できる施設が少なく、特に中山間部で不足している。高齢者や障がい者にとって使いやすい施設を考える必要があると思う。

●利用率

- 市は公共施設の利用率を気にしているようだが、利用手続きの簡素化、利用条件の緩和、利用料金を上げないなどの策を行えば、利用率を上げることはできるのではないか。
- 各施設の設備、部屋の大きさや定員、申込方法などの利用に関する情報をweb等でわかりやすく発信すれば、利用率を上げることができると思う。そういう工夫をした上で利用率が改善しなかったら、その段階で再編を検

討してはどうか。

- 公民館の利用率が悪いのは、利用したい時間帯が重なっていることが要因の1つではないか。速星地区に集中している施設を分散させたり、学校や自治会の公民館の集会室を開放するなどして、利用しやすくすることも必要だと思う。
- 居住地ではない地区以外との関わりを持つ人、いわゆる関係人口を増やしたり、近年地域に増えている若い親世代が使いやすい施設にすることで、公共施設の利用率を向上させ、地区に活気を生むことができるのではないか。

■ 集会施設

- 高齢者、特に一人暮らしの方にとって自宅から近い所に集いの場があることは大切だ。公民館は地区住民が集まれる唯一の場なので、利用人数が少ないから廃止できるものではないと思う。8地区全ての公民館を維持したい。
- 公民館にはコミュニティセンターなど他の機能も入っているので、一般的な公民館と同じように統廃合の議論を進めて良いのか。行政の公民館と地域の公民館の2つがある地区と1つの公民館に双方の機能がある地区とがあるので、各地区の状況や公民館に他の機能を複合した経緯、改修等に制限がかかる財源を使用していないか等を確認した上で検討を進めた方が良い。
- 過去に小学校の統合ができたのだから、集会施設を小学校区に1つにすることが絶対できなというわけではないだろう。しかし、現実には難しい面があるので、すぐにというわけではなく、将来的には集会施設を集約する選択肢もありうるということかと思う。
- 速星公民館は速星地区以外の地域住民や富山市民全般にも多く使われているので、利用率が高くなっている。そういう市や地域全体で利用されている公民館と特定の地区住民のための公民館とでは利用者の範囲が異なる

るのだから、利用人数を比較して廃止の判断をするのはおかしいと思う。

- 富山市では市民であればどこの公民館を利用しても良いので、速星公民館を他地域の住民が使うことに問題はないが、地域住民は予約開始日を早めるなど、地域外の人より予約方法や利用方法を優遇すれば、地域の人々の利用率が上がるのではないかと。

■ 文化施設

- 婦中ふれあい館の周辺は施設が充実しており、ふれあい館の稼働率は高い。施設が集約されているため、公民館と共同の駐車場はいつも混んでおり、大きなイベントがあると満車で使えないこともある。
- 婦中ふれあい館は合併後に利用率が増加しているが、婦中地域以外からの利用が増えていることが要因だと聞いた。予約を取ろうとしても抽選になることがあり、地域住民が利用しづらくなっているため対策が必要だと思う。

■ 図書館・博物館等

- 安田城跡ガイダンス施設のように利用者が少なかったり、その場所になければならない理由があまりない博物館等の施設は、他の施設に統合、集約してはどうか。
- 鶴坂資料保管庫や婦中埋蔵文化財収蔵庫は、市民が利用する施設ではない。稼働すれば電気代がかかるし、老朽化しているので解体するにしてもお金がかかるだろう。婦中行政サービスセンターの空きスペースを活用するなどできないのか。

■ スポーツ施設

- スポーツ施設は人口の多い地区に集中しているため、人口の少ない地区からの利便性を考え、アクセスを良くすることを検討したい。
- 婦中体育館で行っていた行事や大会が婦中ふれあい館で開催されるよう

になったこと等により、体育館の利用率が低下したと思う。トレーニング器具はあるのに指導者がいないという課題もあるので、指導スタッフを育成し、スポーツ大会だけでなく一般利用もできることを伝えれば利用率が上げられるのではないか。

- 速星小学校では校舎が増築されて運動場が狭くなったため、婦中スポーツプラザグラウンドを運動会で利用するなど、学校の延長線上の施設として使っている。
- 婦中スポーツプラザプールやストリートスポーツパークは利用者が少ない。プールは屋根の開閉ができなくなっているし、富山市内の市民プールは次々に閉鎖されているので、いずれ廃止されるのではないか。

■ 学校・保育所・幼児児童施設

● 学校

- 学校は地域の中核となる施設であり災害時の避難所にもなっているので、活性化や防災を踏まえ、児童、生徒数が減少したとしても維持したい。
- 最近では地域の祭りや行事などで小、中学校を利用できなくなったが、地域住民が使えるようにならないか。学校の空きスペースの有効活用につながり、地域力も向上すると思うので、セキュリティ対策をした上で実現できると良い。

● 保育所

- この先地域に家を建て、移り住んでくるのは30～40代の共働き世代が多いと思うので、自宅の近くで子どもを預けられる場所を確保できるように、地域内の保育所はできるだけ維持したい。
- 保育所は民営化していけると良いと思うが、利用者数の少ない保育所だと難しいのではないか。民営化するための条件や基準があるのか。

● 児童館・子育て施設

- 新型コロナによる自粛で学童に行かずに自宅で過ごすことになり、そのまま学童をやめた子どもがいると聞いた。来年から児童館の時間が短縮されることもあり、ますます児童館の利用率が下がることを懸念している。児童館の利用の仕方が変わってくるのではないかと。
- 昔とは異なり放課後に友人の家や屋外で遊ぶことが難しくなっているため、既存の公共施設を活用して小学生が運動や遊びに使える場所が確保できると良い。学校が改修中でグラウンドが使えない時などにも利用できる。
- 未就園の小さな子どもと一緒に、気兼ねなく過ごせる施設があまりない。親子でも、子どもが一人でも利用できるような子育て支援施設を、児童館や公民館などの既存施設の活用も考えながら整備できると良い。

■ 庁舎等

- 婦中行政サービスセンターにはかなりの空きスペースがあるので、他の機能を複合したり、民間企業や団体に貸して有効活用してはどうか。規模の縮小や廃止も選択肢としてはありうる。
- 婦中行政サービスセンターは、利用者以外も駐車場に車を停めているせいか、駐車場が足りていないように思う。人口も増えてきているので駐車場を増やす必要があるのではないかと。